

芹三千三百九十六束

〔曾根好忠集〕正月中

ね。芹。摘春の澤田におり立て衣のすそのぬれぬ日ぞなき

〔新撰六帖六〕せり

知家

いたづらにある、そのふのはたけせり。侘しげにても有世成けり

〔饅頭屋本節用集〕芙蓉葉草木

〔書言字考節用集〕蜀葵野生植

〔古名録〕水二三二みつばせり料理書 漢名未詳

〔大和本草〕菜五蔬野蜀葵 和名ミツバセリ、救荒本草ニノセタリ、稻若水以爲三葉芹、春宿根ヨリ生

ズ、莖ハ芹ノ如ニシテ大ナリ、香味モ亦似タリ、春月莖ヲトリ葉ヲ去、煮テ豆油ニ和シテ食フ、香味

美シ、又生ニテ生魚ノ膾ニ加フ、無毒脾胃無害益於人、佳蔬トス、又ツケモノトス、夏月臺モ葉モ食

フベシ、嫩葉ハ飯ニ加ヘ食ス、

〔食物知新〕香菜渣芹弘景

釋名、三葉芹和名 三葉攢生一處、氣微似芹菜、故名之、略○中

辨疑、或曰、近時訓釋家、以野蜀葵當于三葉芹、吾子不取何哉、予神田曰、野蜀葵非可爲三葉芹者、可

見救荒本草云、野蜀葵生荒野中、就地叢生、苗高五寸許、葉似葛勒子、秧葉而厚大、又似地牡丹葉、味辣

云々、蓋三葉芹不似葛勒子、味亦不辣、故不取之也、

〔農業全書〕山野菜野蜀葵五

三葉芹うへ様、芹に同じ、水濕の邊り、樹下かきのもと、其外陰濕の肥たる所に、畦作りしてうへた

るは猶よし、草かゝめ、手入を加ふれば、一入さかへ、料理に用ひやはらかにして、風味ある物也、鱈